

まちづくり活動への参加意志と対人不安の関係についての分析

名古屋工業大学大学院 学生会員 島田 壮一郎
 名古屋工業大学大学院 正会員 中居 楓子
 名古屋工業大学大学院 正会員 秀島 栄三

1. はじめに

地域の課題を解決するためにまちづくりの取り組みが行われている。取り組みへの住民参加を促進するべく各種のまちづくり活動が行われており、多くの参加者の意見をふまえて行うことが望まれる。しかし、住民参加のまちづくり活動を推進する上で問題点として人的資源の不足、参加者の固定化に関することが多く挙げられており¹⁾、より広い参加を促すことが求められる。人と接することに対して不安がある人は参加をためらう可能性があり、結果として参加者が偏る可能性がある。より広い参加を求めるために、人と接することに対しての不安が高い人に目を向ける必要がある。

本研究では、活動での参加者の関わりの深さの違いごとにまちづくり活動への参加意志と対人不安の関係を分析し、対人不安が高い人がまちづくりの取り組みに参加しやすい活動について考察する。

2. まちづくり活動での関わりの深さと対人不安

(1) まちづくり活動の形式

住民参加によるまちづくりの取り組みにおいて様々な形式で活動が行われている。Sherry R. Arnstein は住民参加の活動を参加の深さや形式の違いによって8つに分類している²⁾。1~2段階を非参加の段階、3~5段階を形式だけの参加、6~8段階を住民権力を用いた参加としている。段階が上がるほど住民の主体性が強くなり、住民参加のあるべき姿に近づくとされている。しかし、そのような活動においては様々な主体との関わりのなかで活動することが多くなる可能性が高い。関わりが多くなるにつれて対人行動に対して不安を感じている住民が活動に参加しにくくなると考えられる。そのような場合に、対人不安の高い人の参加への障壁が高くなる。対人不安の高い参加者への参加を促進するために理想とされる活動だけ済むとは限らない。

(2) まちづくり活動と対人不安

Leary²⁾によると対人不安とは「現実の、あるいは想像上の対人場面において、他者からの評価に直面したり、もしくはそれを予測したりすることから生じる不安状態」と定義される。

まちづくり活動に対して、自分がよい意見を発言する参加者であると思わせたいという動機が生まれると考えられる。また、様々な参加者と様々な方法でコミュニケーションを取る必要があることからそのような動機を満たすことが難しいことがわかる。このことからまちづくり活動の参加に対して対人不安が生じる可能性がある。

対人不安の高い人は対人場면을避ける行動をとる³⁾。まちづくり活動の場面で対人不安の高い人はまちづくり活動への参加を避け、主体的な参加ができなくなると考えられる。本研究では学生を対象としたアンケート調査によって対人不安と参加者間の関わりの深さの異なるまちづくり活動の参加意志について調査し、対人不安と各まちづくり活動の参加意志について相関分析を行う。相関係数を比較することで対人不安の高い人も参加しやすい活動について考察を行う。

3. 調査

(1) 対人不安に関するアンケート

対人不安の項目は対人不安感尺度を日本語訳したものをを用いる。表-1に質問項目を示す。この尺度により自己報告による純粋な対人不安を調査することが出来る。対人不安感尺度は、15項目で構成される相互不安尺度、12項目で構成される聴衆不安尺度の二つの下位尺度から構成される。

(2) まちづくり活動の参加に関するアンケート

表-2に示す分類ごとのまちづくり活動への参加経験の有無および参加意志を質問する。参加意志は行政に意見や不満があるときにそれらの活動に参加したいかと質問を行った。Arnsteinの分類の3~8段

表-1 対人不安感尺度

相互作用不安	私はちょっとした集まりでさえも、しばしば引っ込み思案になる。
	私は知らない人の集まりの中にいると、いつも居心地が悪い。
	私は異性の友人に対して気楽に話せる。
	私は先生や上司と話をしなければならぬと、そのことが負担になる。
	私はパーティなどで、しばしば不安になったり不快な気持ちになったりする。
	私はどちらかというとな社会的な方だ。
	私は同性の人でも、あまり親しくない人と話すとき緊張する。
	私がもし仕事で人と会わなければならないとしたら、そのことがかなり気がかりとなる。
	私は人と付き合っていく上で、もっと自信が持てるようになりたい。
	私は対人関係がそれほど苦にならない。
	一般的に私は内気な方だ。
	私は魅力的な異性に話すとき、しばしば臆病になる。
	私はあまり親しくない人に電話を掛ける時、そのことが苦になる。
	私が偉い人に話しかける時、いつも緊張する。
私は知らない人の中にもリラックスできる。	
聴衆不安尺度	私は人前で話す間、ずっと緊張している。
	私は人前で話をするのが好きだ。
	私は人前に出ていかなければならない時、緊張する方だ。
	私がもし、たくさんの聴衆の前に出ていかないといけなければならないと、考えただけで怖い。
	私が人前で話したり、何かをしなければならぬ時、そわそわして落ち着かなくなる。
	カメラで写されることが分かると、緊張してぎこちなくなってしまう。
	私は人前で話をする時、自分の考えがまとまらなくなってしまう。
	事前にリハーサルさえしておけば、人前で話すのは苦にならない。
	私は人前で話すことがこんなに苦にならなければいいのにと思う。
	もし私が音楽家なら、おそらくコンサートの前には上がってしまうだろう。
私は他人の前で話をする時、自分が笑い者にならないかと不安になる。	
私は学校や職場で自分の意見を述べなければならない時、臆病になってしまう。	

階に当てはまる具体的な活動を項目として用いた。

(3) 参加についての意識に関するアンケート

まちづくり活動に参加するにあたって求められる程度について質問する。参加する意識が高い人は対人不安の影響が高くなると考えられるため意識の高低で分類する。

(4) 個人属性に関するアンケート

個人属性については年齢と大学の所属について質問を行う。まちづくりに関わる学部などに所属している人は対人不安が高い場合でも参加意志が

表-2 まちづくり活動の形式

(ア) 行政が主催する講習会や講演会
(イ) パブリックコメントや住民説明会
(ウ) 議会に対する陳情や請願
(エ) 行政施策について意思決定を求められるワークショップ
(オ) まちづくり組織やNPOにおける活動
(カ) 市民立法のための活動

高くなる可能性があるため除外して分析する。

5. 分析と考察

対人不安と各まちづくり活動への参加意志との相関を明らかにする。参加についての意識が高い参加者において、活動への参加意志と相互作用不安尺度の値との間で相関がみられた。相関係数は講習会や講演会が-0.3693、パブリックコメントや住民説明会が-0.4588、陳情や請願が-0.5198、ワークショップが-0.6281、まちづくり組織での活動が0.0030、市民立法が-0.4303であった。複数の活動において対人不安と参加意志に相関がみられたことから対人不安の高さが参加への阻害要因になると考えられる。また、講演会への参加との相関が弱いことから関わりの浅い活動を行うことで対人不安の高い人の参加を促進することが出来ると考えられる。

6. おわりに

本研究では対人不安とまちづくり活動の参加意志についてアンケート調査を行い、対人不安と参加意志について相関分析をした。参加の深さが違うまちづくり活動ごとの相関係数を比較し、対人不安の高い人が参加しやすい活動について考察を行った。これによってまちづくりの取り組みにおいて協働の少ない活動を行うことの必要があることについて論ずることが出来、対人不安の高い人にまちづくり活動への参加を促すことができると考えられる。

参考文献

- 1)国土交通省：「次世代参加型まちづくり」に向けてとりまとめ, 2003.
- 2)S. R. Arnstein : A Ladder of Citizen Participation, *Journal of the American Planning Association*, Vol. 35, No. 4, pp. 216-224, 1969.
- 3)M・R・リアリィ (生和秀敏訳) : 対人不安,北大路書房, 1990.